「災害遺構」について
一つの試案

於　内閣府

2015年10月15日

北原糸子

「災害遺構」を考える

- 災害とは何をどのようなものを対象とするか

＊自然突発性災害（地震、津波、噴火）

＊自然的社会的災害（風水害、火災）

- 遺構とはどのようなものを指すのか

＊災害発生によって、変位を受けた自然の痕跡・・・①

＊災害発生によって、人工構造物が損傷された場合、
または修復・維持されている場合・・・②

「震災遺産」という概念

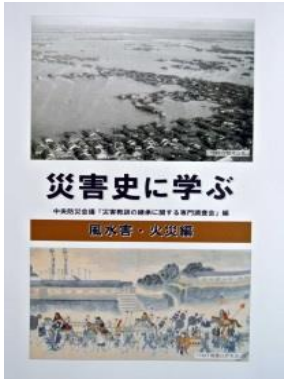
1. 震災によって新たに生み出された人工物
2. 震災によって生み出され、震災過程の記録、あるいは震災を記念するための装置
3. 災害抑制あるいは防止の目的を以て、活用を目指されるもの
4. 災害復興へ向けて地域の伝統的行事を持続或いは再興させ、地域の絆とする

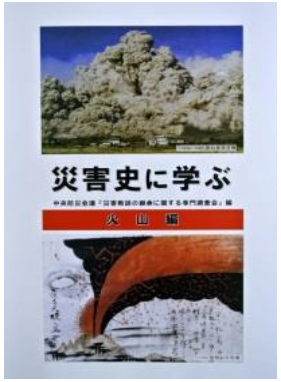
中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会編

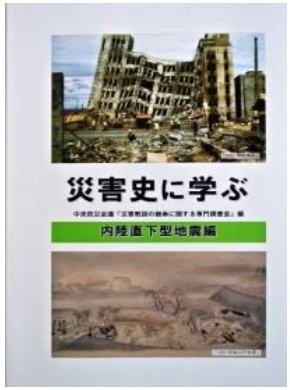
歴史災害の報告書（2003～2013）

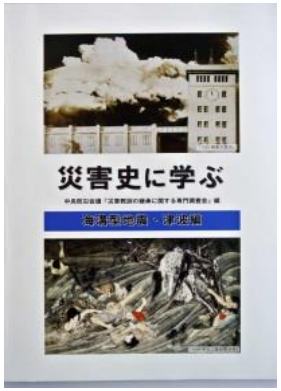
歴史的事例から考えるために
（除　阪神大震災・新潟中越地震・東日本大震災）

災害史に学ぶ			
編	年代	災害	分類
海溝型	1854	安政東海地震・南海地震	地震
海溝型	1896	明治三陸津波	地震
海溝型	1923	関東大震災	地震
海溝型	1933	昭和三陸津波	地震
海溝型	1944	東南海地震	地震
海溝型	1960	チリ地震津波	地震
直下型	1662	寛文近江・若狭地震	地震
直下型	1847	善光寺地震	地震
直下型	1855	安政江戸地震	地震
直下型	1858	飛越地震	地震
直下型	1891	濃尾地震	地震
直下型	1945	三河地震	地震
直下型	1948	福井地震	地震
火山	1707	富士山宝永噴火	火山
火山	1783	浅間山天明噴火	火山
火山	1888	磐梯山噴火	火山
火山	1914	桜島噴火	火山
火山	1926	十勝岳噴火	火山
火山	1990-1995	雲仙普賢岳噴火	火山
風水・火災	1947	カスリーン台風	風水害
風水・火災	1959	伊勢湾台風	風水害
風水・火災	1982	長崎豪雨災害	風水害
風水・火災	1657	明暦江戸大火	大火
風水・火災	1976	酒田の大火	大火
風水・火災	1890	エルトゥールル号事件	海難









4冊の簡易版報告書にまとめた

小学生向けパンフレット作成

災害を語りつぐ	取り上げた話題	対象となる災害
エピソード1	大阪の人が守り続ける津波碑	安政南海地震
エピソード2	見の終り(美濃・尾張)	濃尾地震
エピソード3	火災から町を守った神田っ子	関東大震災
エピソード4	107歳・帝さんの証言	関東大震災
エピソード5	戦争にkされた大震災	東南海地震
エピソード6	非常時の決断	福井地震
エピソード7	よみがえった鎌原村	浅間山天明噴火
エピソード8	泥流に埋まった村を蘇らせた村長	十勝岳噴火
エピソード9	災害がもたらした絆　日本とトルコ	エルトゥールル号事件
エピソード10	高校生の献身的な救助活動	伊勢湾台風
エピソード11	燃えつくした風の街決死の消防活動	酒田大火

①自然突発性災害による自然の変位

- 寛文・近江地震による**三方五湖**

1. 元禄地震による南房総伊勢**島崎の隆起**

- 善光寺地震による**虚空蔵山崩壊（犀川堰き止め**、20日後に決壊）
- 富士山宝永噴火による**宝永山出現**、
- 飛越地震による**立山カルデラの崩落**、常願寺川決壊
- 十勝岳の**泥流被害**
- 三河地震による**深溝断層の出現**
- 濃尾地震による**根尾谷断層の出現**
- 浅間山噴火による**鬼押出しの形成**
- 磐梯山噴火による磐梯山の**山体崩落**

元禄地震・南房総伊勢島隆起

濃尾地震根尾谷断層写真

天明泥流による火石（群馬県中村）

口絵２　深溝断層（津屋弘逵氏撮影、伊藤和明提供）

三河地震・深溝断層（1945年当時）

②人工構造物の損傷・残存→修復維持

- 善光寺地震による本堂の柱が地震で捩れた（残存、本堂を支える）
- 　安政南海地震後の有田広川町の防波堤
- 　福井地震で崩壊した丸岡城（戦前国宝指定、再建され指定取り消し、再建城郭残存）
- 　福井地震で残った酒伊ビル（**GHQ**接収後変換、現在中央三井信託銀行）のビル（残存）
- 　宝永地震被害城郭データベース（北原・大邑作成、内閣府HPに掲載）

カソリーン台風利根川決壊口跡
１９４８年建立、

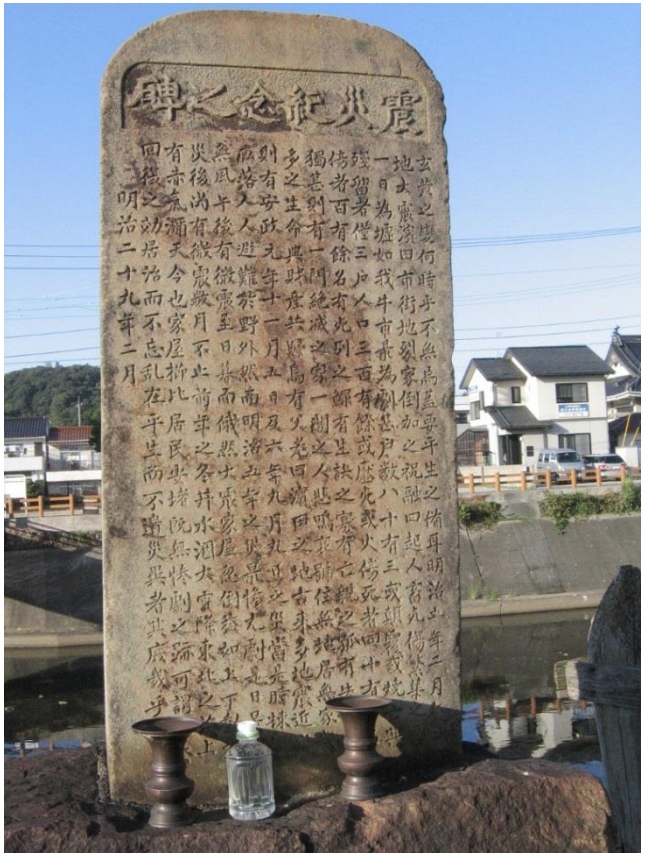
水塚の現状（２００９）

和歌山広川の濱口梧陵による築堤

震災遺産の具体例
―供養碑・慰霊堂―

大正橋・東詰にある大地震両川口津浪記の石碑

安政南海地震津波碑（現在も年々維持管理）



浜田地震（明治5年）震災紀念碑

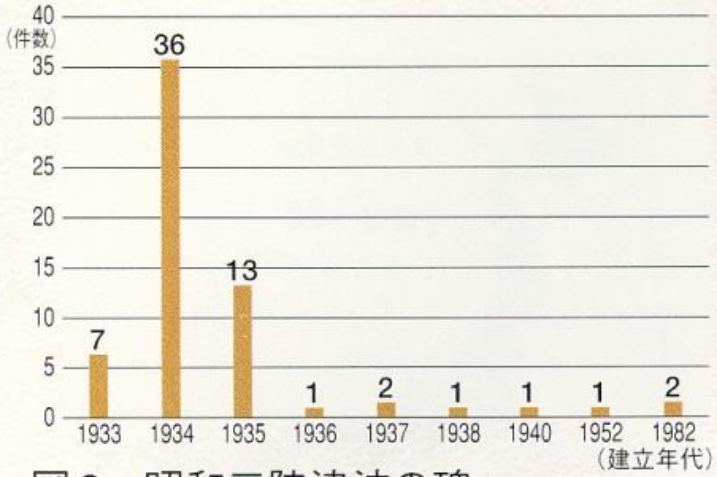
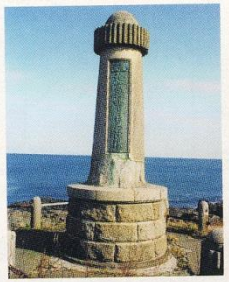


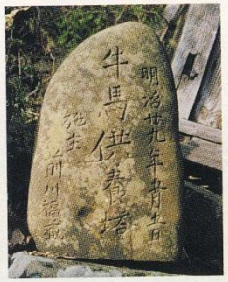
図２　昭和三陸津波の碑

図３　明治三陸津波の碑



1 地震海鳴りほら津浪

2 明治二十九年某家墓碑



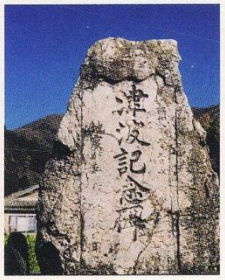
3 牛馬供養塔

4 チリ地震津波記念碑

5 大津波記念碑

6 昭和八年津波記念碑

7 明治二十九年集落犠牲者名



8 津波記念碑

震災遺産の具体例

- 関東大震災の帝都復興事業による都市計画法に基づく道路、橋梁、建築物など多数
- 関東大震災による死者慰霊、遺骨収容の震災記念堂（現東京都慰霊堂）

震災の記録類

善光寺地震山中崩落図

善光寺地震のかわら版

庄内地震写真帖（科学博物館蔵）

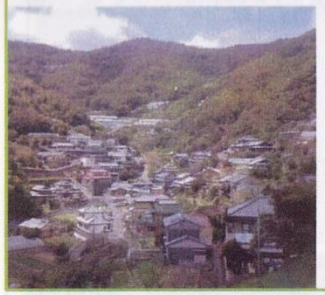
関東大震災関係書類（長野県歴史館蔵）

民俗伝承長崎豪雨（念仏饅頭）

3. 山川河内地区の概況と地域の絆～念仏講まんじゅう～

長崎大学、NPO法人砂防広報センター

文化的に独自性を保ってきた趣がある山川河内地区



- 長崎市の東端にあって南に橘湾天草灘を望み、中央に太田尾川上流にあたる山川河内川が流れる緑豊かな太田尾町山川河内地区。
- 明治初頭まで幕府の天領で、近年では"電照菊"（電灯を灯して早期に菊の花を出荷する）の栽培などを主としていた。
- 古くから30～40世帯を維持。山を隔て他地区と離れていることなどから文化的に独自性を保ってきた趣がある。
- この地区では、江戸時代末期の万延元年（1860）に土砂災害が発生し、32名もの犠牲者が出た過去がある。
- しかし、昭和57年（1982）7月の長崎豪雨災害時には、隣接する芒塚地区と同様に土砂災害による甚大な被害が出たが一人の負傷者も出なかった。
- 万延元年の災害で亡くなられた方々等の供養と災害を忘れないため、この地区では独自の営みが行われていた。
- それは「念仏講まんじゅう」と言い、現在に至る約150年もの間、今なお続けられている。

図1. 山あいの山川河内集落

流されなかった"水神・山神・土神"

- 山川河内川1号ダム堰堤直下に"水神・山神・土神"を祀った石碑がある。
- 長崎豪雨災害時に流されなかったことから、砂防堰堤工事の際には住民の要望により保存された。

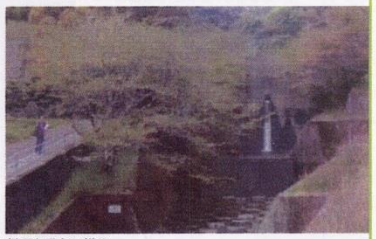
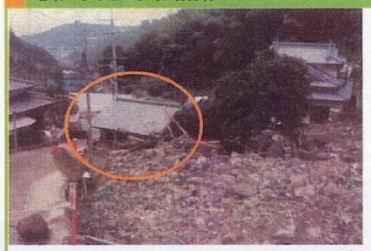


図3. 流されずに残った様子と現在の様子

地域のよりどころ"お観音様"



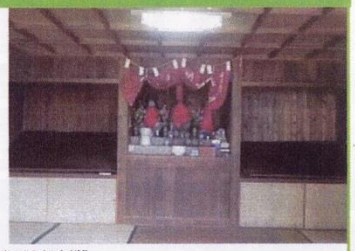


図2. 土砂に埋もれた観音堂と"お観音様"

- 長崎豪雨災害時に流されるも首だけはその場所に残った。
- 観音様の被害はあったが、人の被害がなかったので、地元の人は観音様が守ってくれたと語り継いでいます。

「念仏講まんじゅう」と"馬頭観音"

図4. 「念仏講まんじゅう」の餡はり（念仏を唱えること）とまんじゅう配りの様子

【念仏講まんじゅう】

- 毎月14日に各家持ち回りで行われる山川河内独特の念仏講。
- 万延元年に発生した土砂災害の犠牲者の捜索が13日に打ち切られ、14日に供養の法要が営まれたのに由来。
- 観音様に念仏を唱え、古くは煮豆・串団子・餅などを全戸に配布。近年はまんじゅう。
- 一時中止したことがあるが病気等好ましくないことが多発し再開。
- 現在、念仏講そのものは生活様式の変化等から行われていないが、まんじゅう配りは今なお続いている。

【馬頭観音】

- 馬頭観音は万延元年災害時の牛馬の供養のためとされている。

万延元年の崩壊跡と逃底川

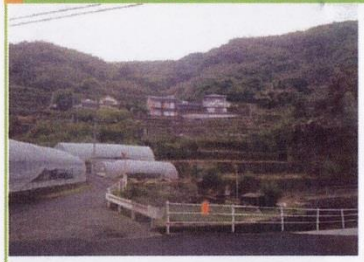
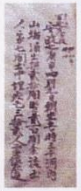


図5. 逃底川

【万延元年（1860）の災害（山川河内過去帳より）】

- 万延元年（1860）6月下旬、長崎地方で大水害。ことに山川河内は被害が大きかった。
- 早朝、山川河内川の左岸で山塩が発生
  （横貳拾間（約36m）、竪貳百間（約360m）
  死傷者33人（男18女15他1人けが）
  家屋8軒（小屋7軒）流失。
  家畜13頭（牛6馬7）流失。
- 出水源頭付近を"逃底"（ぬけそこ）と呼ぶ。



【"逃底"（ぬけそこ）】

- ぬけそこ：「逃底」あるいは「抜ヶ底」あるいは「脱け底」。
- 土石流で洗い流された底という意味。
- 崩壊跡地の沢を"逃底川"として今なお残る。（引用：「日吉方言集」）

【地域の想い】

- 過去に土石流等による被害を受けた逃底川筋には家を建てずに、高台や尾根地形のところに家を建てている。
- 『砂防堰堤の水通しから水が出てきたら逃げる』等の警戒・避難に関する意識も根付いている。
- 万延元年（1860）に発生した土砂災害の経験を契機に、明治・大正・昭和の戦前・戦後の激動の時代も含め、砂防堰堤等が整備された今もなお、約150年もの間続けられている「念仏講まんじゅう」。
- 祖先からの言い伝えや想いは、地区住民の手で今も次の世代へ引き継がれている。